

## 〇みんなでまちづくり推進会議 ～これまでの振り返り～

<平成23年度>H24.3.16

- ・毎熊アドバイザー講演会

テーマ：「協働のまちづくり」について

<平成24年度>H25.3.25

- ・ワールドカフェ方式による討議（毎熊アドバイザー）

テーマ：市民活動についてのアンケート結果からの課題について

※市民活動団体（33団体）のアンケート調査結果を受けて。

<平成25年度>H26.3.26

- ・ワークショップ方式による討議（毎熊アドバイザー）

テーマ：「ものさし」づくりワークショップfor「みんなでまちづくり条例」

※「境港市みんなでまちづくり条例」施行後6年が過ぎ、条例の目的をどの程度果たしているか検討するための「ものさし」づくり。

<平成26年度>H27.3.26

- ・ワールドカフェ方式による討議（毎熊アドバイザー）

テーマ：地方創生において取り組む施策について

※境港市総合戦略策定に向けての意見について。

<平成28年度①>H28.4.11

- ・ワールドカフェ方式による討議（毎熊アドバイザー※島根大学生14名も参加）

テーマ：若い世代の行政参加について

（主な意見）

- ・意見が反映されない。政治家にいいイメージがない。
- ・行政が遠い存在だと感じている。自分の生活とどう関わっているかわからない、身近に接する機会がない。
- ・市報や議会報など紙ベースの発刊物があるが紙媒体になじみが薄い。SNS等で発信してほしい。
- ・小・中・高校と決め事に参加する機会を与えてもらえていないから。
- ・時間がない。（学生はアルバイトや遊び、20～30代は仕事と子育てに時間をとられる。）
- ・いろいろな世代の人が集まり、行政や政治などいろいろな話をする場を用意する。
- ・祭りなど楽しいイベントがともにあり、参加することに楽しみを感じてもらえるようにしていく。
- ・若者と市長や議員が触れ合う・語り合う機会を創る（難しいテーマでなく、平易なテーマなどで）

- ・学校でワールドカフェのような方式で気楽に行政参加する場を設ける。

<平成28年度②>H28.11.10

- ・フリートーク

テーマ：若い世代の行政参加について

(主な意見)

- ・学校を巻き込むことが効果的だが、事前準備に手間がかかること、先生が非常に多忙である。
- ・小学生の議場体験、学生と市長の子ども議会の取組など、学生のうちから行政参加を意識させる取組が必要。
- ・学校教育が重要。若いうちから行政や議会を身近に感じてもらえるようにしていくことが必要。
- ・市税や観光などのテーマで市職員が学校へ出前授業のようなものをしてもいいのではないか。
- ・若い世代は結婚して子どもができて初めて行政支援や行政参加について意識するようになるので結婚に向けた取組も有効ではないか。

<参考>

○H28.10.31

「境港市議会と市内高校生との懇談会」開催

市議会と境高校、境港総合技術高校の高校生15名とのワールドカフェ方式による懇談会

(高校生の、境港に対する感想、政治への関心、将来への想い等について意見を聴いた。)

○平成29年度

自治防災課において、新たな広聴事業として、次代を担う若い世代の人と、子育てや教育・移住定住などについて意見交換を行う。

<内容>

- ・20歳代、30歳代の若者を委員に委嘱する。(委員数は10名程度)
- ・委員への事前アンケートを行いテーマ選定し、委員間でのグループ討議をしてもらう。
- ・市への意見や提言をとりまとめてもらい、市長との意見交換を実施する。
- ・意見や提言をもとに、可能な限り施策に反映させる。